

【JRPSミドル部会】
当事者における踏切利用の
実態について

アンケート

JRPSミドル部会

西川隆之

2022/12/3

自己紹介

公益社団法人日本網膜色素変性症協会 (JRPS)

- ・会員4000名程度
- ・令和4年にミドル部会を設立
(36～50歳までの全国の会員・家族の部会)

見え方

- ・ロービジョン:弱視(視力0.1、視野5度程度)

経歴・仕事

- ・IT企業にて、アプリのアクセシビリティ改善に取り組む

目次

1. アンケート概要
2. 具体的な危険な事例
3. 当事者の踏切利用上の問題点
4. 踏切を渡るときアンケートの各自の工夫
5. 歩行訓練にて踏切での訓練を受けた方のフィードバック
6. 踏切の環境への改善提案

本日のメインテーマ

踏切は当事者にとって危険なのか？



現役世代の視覚障害者にとって
踏切は「危険」であり、なるべく避けたいもの
現状の対策では不十分なので、対策の
検討が必要と思われる

1. アンケート概要

当事者の踏切利用における実態調査アンケートを実施

- アンケート対象はJRPSユース部会（16～35歳の部会）の会員、ミドル部会（36～50歳の部会）
- 計26名の回答。30代、40代の方が8割
- ・2割の人は、週に1回以上踏切を横断する。6割の人は、年に一回程度であった
- 4人のうち3人は、踏切利用において何かしら危険を感じる経験をしたことがある
 - [かなり危険を感じた] 25%
 - [少し危険を感じた] 50%

2. 具体的な危険な事例

- 踏切横断に気づけない
 - ・踏切内に入ったことがわからず、人に声をかけてもらい気づいた
 - ・踏切の始まりと終わりが分からない
- 踏切内の歩道の歩きづらさ
 - ・路面のガタつきや線路に白杖が引っかかり、歩行が困難
 - ・踏切内で方向が分からなくなり、踏切の端に落ちたり、段差に躓いて転倒した
 - ・見えにくいことで急げず、時間内に渡り切れない(遮断機をくぐって出たケースも)
- 狭い道路に車も自転車も
 - ・踏切内の歩道と車道が分離されておらず、歩道の幅が狭く、車に接触した
 - ・踏切上で車とすれ違う時に車が接近して怖かった
 - ・自転車がスピードを出して向かってきて怖かった
- 警報音による焦り
 - ・警報音が鳴った時に焦ってしまい、進方向がわからなくなった
「カンカン、カンカン！」と突然聞こえ、「急がないと！」と焦る

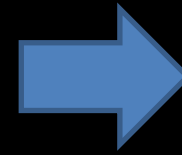
2. 具体的な危険な事例

特に危険な事例

初めての場所で夜間歩行していた際、踏切と認識しないまま踏切を歩行しており、警報音がなったので線路上にいることを認識した。どの方向に逃げれば線路外に出れるかわからずその場で固まっていたところ通行人に助けもらった。

3. 当事者の踏切利用上の問題点

「突然」、「タイムリミットが設定される」が、
「歩道の難易度が高い」ため「急げない」



だから
恐怖！

- 難易度の非常に高い踏切内の歩道
 - ・正しく白状が使えない(引っかかり)
 - ・進むべき方向がわかりづらい(点字ブロックがないため)
 - ・車や自転車との衝突・接触リスク
- 踏切の認知がしづらい
 - ・自身が踏切を渡っているか気づけない
 - ・横断中、踏切内のどこにいるか認識しづらい
- 警報音による時間制約
 - ・警報音は突然鳴り、不安や焦りから冷静な判断がしづらくなる
 - ※踏切の設備については国の基準で規定されている
 - 警報が鳴ってから遮断機が下りるまでの時間は、10秒～15秒
 - 警報機が鳴り始めてから列車が到達するまでの時間は、25秒～35秒

4. 踏切を渡るときの各自の工夫

- 踏切を利用しない・迂回する：30%
- 確認
 - ・慣れた場所では線路をいくつ渡れば踏切から出られるか、幅や歩道の角度などを明るい時間に確認しておく
 - ・白線を頼りにわたっている
 - ・踏切と線路の段差を確実に白杖で確認する
- 渡るタイミング
 - ・遮断機が上がってから、数秒待ってから渡る
 - ・他の歩行者の状態をみて同じ行動をとる
 - ・人に声をかけて一緒に踏切を横断してもらう
- 警戒して歩く
 - ・渡る時は緊張感を持つ
 - ・警報なった段階で警戒して歩く
 - ・警報音から離れるようにする

5. 歩行訓練にて踏切での訓練を受けた方のフィードバック

【よかった点】

- 踏切の特性に応じて、適切な渡り方を教えてもらった
 - ・踏切の幅や長さ、遮断機が下りてくる向き、踏切の始めと終わりの距離感など、踏切について詳しく説明してもらえた
 - ・電車の発着時に車、人の往来が特に多くなるため、その混雑する時間を外すアドバイスをもらう
 - ・迂回路を紹介してもらえたこと
- 心構え
 - ・焦らないことを意識するよう言われた
 - ・警報音がなったら引き返すことを教わった

【改善要望】

- ・人とのすれ違い方を教えてほしい

6. 踏切の環境への改善提案

● 音声による案内

- ・踏切の存在を音で知らせる
「ここは踏切です」のアナウンスを常に流す(例: 駅中のトイレ)
人が近づいたら「ここは踏切です」と音で知らせる
入り口/出口に音声案内がある
- ・遮断機が下りることを予告する
遮断器が降りる前にあと何秒後に降りるかといったアナウンスがあると安心
- ・遮断機があがっていることがわかる音声案内
横断歩道の音響のように、遮断機が上がったときに音や音声が行れる

● 点字ブロック・エスコートゾーンの設置

- ・踏切の手前(入り口/出口)
- ・踏切内エスコートゾーン、

● システム

- ・人が踏切内に取り残されている場合には、自動的に電車が停止するシステムの導入

6. 踏切の環境への改善提案

●環境面

- ・高架の設置
- ・車道と歩道の区切りが分かれると良い
- ・線路への白状の引っかけかりが小さい場所を作る
- ・遮断機を触ると、踏切の内側か外側かが識別できる(例:内側部分はザラザラしている)

●その他

- ・死亡事故や危険を感じる視覚障害者がいることの啓発
- ・踏切を渡る際のコツなどを広めていただきたい

ご清聴ありがとうございました！